

## 「最強の名古屋」なのか

『週刊東洋経済』の臨時増刊は5月21日号で「日本経済をリードする最強の名古屋」という特集を行った。名古屋の書店や地下鉄の売店などに高く積み、初刷りの4万5千部は3日でほぼ売り切れ、直ちに増刷されたという。「いま名古屋が注目されている。貿易黒字の7割を稼ぎ、日本の景気回復を先導。その底流にある堅実な企業経営。開幕の迫る愛知万博、新空港。元気な名古屋を狙い、大手資本も次々と参入を始めた。名古屋の強さの秘密を徹底解剖する」というものだ。



下の写真は7月1日付の読売新聞の名古屋特集による。「闇の中に、二つの塔がそびえている。足元には光の帯。空から見た夜の名古屋駅周辺の光景は、あたかも海に浮かぶ巨艦のようだ。名古屋の変ぼうが著しい。」その活力を象徴するかのよう



に交通網の整備や都市再開発が進む。進化を続ける名古屋の街に、全国から熱い視線が注がれている。」

最近、新聞や雑誌、そしてテレビでも名古屋特集が流行っている。景気が上向き中で、「元気な」名古屋がいちだんと注目を集めるようになった。確かに関西などに比べて、トヨタを中心に経済は好調であり、新空港開港や万博開催も近づいている。「もち上げ」すぎの感もあるが、「元気さ」の解明とともに、その背後にある「影」「ひずみ」についても掘り下げていく必要がある。

右の地図は9日付「中日新聞」の共立総合研究所が発表した調査レポート関連の記事であり、都市圏別の成長力をまとめたものだ。「元気」の源は西三河、「トヨタグループをはじめとする自動車産業が。東海地方の成長のリード役となっていることをあらためて示す格好となった」としている。西三河とは対照的に、名古屋圏や岐阜・大垣圏の成長力が相対的に低くなっている。「最強の名古屋」という言い方も、もっと地域を限定したほうが良いかもしれない。



(7月10日 記)